

木材産業界のコミュニケーション

2024年10月10日発行(毎月1回10日発行)
通巻499号 ISSN 0916-8176

ウッドミック

WOOD INDUSTRY & WOODWORKING MACHINERY INFORMATION CENTER

WOODMIC



●大阪・関西万博の会場シンボル、 1周2kmの木造大屋根リングが1つに繋がる！

- 自動化による生産性向上が木材産業の活性化に！
常に自動化の先を行く協和木材(株)を視る
- 仏製木材塗装特殊乾燥装置「サーモリアクター」を提案／玄々化学工業(株)
 - 早生桐「ジャパロニア」の活用研究会が発足／(株)エコ コスモ
 - 改めて問う「サステナビリティって何？」／中川運河みんなの学校
- 社名を一新で会社のリブランディングを図る／YASAKA (株) 梁崎由喜夫社長
 - IWF2024 (アトランタ展) を視察して／シンクス(株) 関根由郎
- インドネシア通信 No.208 「ブルプック誕生秘話 後日談」の巻／神谷典明
 - 森人回想録(31) 「伊勢湾台風後の更新」／千巻

<https://www.woodmic.com/>



「WOOD」レクシヨ2024 「JAPAN ReWood」 B to C 来場者が初の1万名超え！

東京都が主催する完全B to C 対象の第3回「モクコレReWood 2024」が、去る8月17日(土)〜18日(日)の2日間、東京ビッグサイト南ホール1・2で開催された。

今回は全国から28都道府県110社が出展し、一般消費者向けに全国有数の家具・木工品などが一堂に披露、アピールされた。また、初めての屋外展示をりんかい線駅前のシンボルプロムナード公園で企画していたが、

前日の台風7号の関東接近の影響により準備が間に合わず、2日目に一部のみの実施となった。にもかかわらず2日間で1万1233名が来場し、天候の影響を感じさせずに初の集客1万名超えを達成した。

会場はメインステージを中心に、森林林業と木材産業で行なわれる「しごと」を「育む」「伐る」「挽く」「組む」「創る」の5つの企画展示エリアが取り囲んだ。その横には「ふれあいの森」と称した木育エリアが隣接し、多くの子ども達が夢中に



▲JAPAN ReWood2024 会場風景



▲子ども達に人気の木育トラック manaviba

木育エリアでひとときわ目立ったのが、この6月下旬に完成したばかりの木育トラック「manaviba」だ。創業者にしてReWood出展者でもある(株)一場木工所・一場未帆社長は「今回が実際に子ども達にmanavibaを使って貰う初めての機会。木の色々な可能性や特性を知って貰い、色々な使い方や活かし方、係わり合い方があることを知って欲しい。manaviba自体も色々な使い方に柔軟に対応できるので是非相談して欲しい」と、実運用が開始された感慨を語っていた。

メインステージでは、2日間に亘り、ガチャピン&ムックによる木の仕事の紹介やトークショーなど、子どもから大人までが楽しめるステージイベントが繰り広げられた。

特に、国産材楽器の演奏会では、ギタリストの手島いさむ氏が国産材のサクラ、ヒバ、アカマツ製のギター夫々の音質の特性を使い手線で語り演奏。フルタニランパー(株)・古谷隆明社長とのトークの中で「国産材は

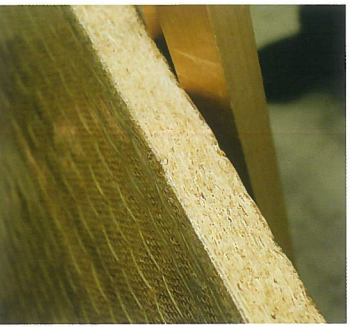


▲国産材楽器の特徴や良さを語る手島いさむ氏(右)と古谷隆明氏(左)

アからはブラスパネルの裏面しか見えないため、出展エリアに気付かずにいったことだ。ReWoodは流石B to Cだけあって、販売OKな一般消費者向けの木製品・小物で溢れかえっている。一歩中へ踏み込むとまる



▲窯藤木材工業(株)：鉄職人とのコラボで開発した、炎の美しいゆらめきを楽しむ焚き火台「スパイラルピット」



▲ヒノキを細かく削って回めた畳床は天然素材100%。全国でも2社しか製造していない(株)アンサンブル会

で仲見世通りのような賑わいを見せていただけに、惜しい。そこに楽しい面白い出展物があることに気付かれにくい会場レイアウトには、もったいなさを感じた。

聞けば、木質感のある南展

場でのモクコレ開催は、主催者としても是非使いたい会場だったそう。

初の屋外展示では、チェンソーパフォーマンスなど林業の実務に関連する体験型イベントが催された。主催・東京都森林課の担当者は「屋外展示は場所も含めて時期を考えると難しいと、夏場の屋外イベントの難しさとなるイベントへの意欲を語っていた。

年末のB to B向け「WOODコレクション2024 Piuus」は、12月19日(木)〜20日(金)に開催が決定している。

JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2024開催

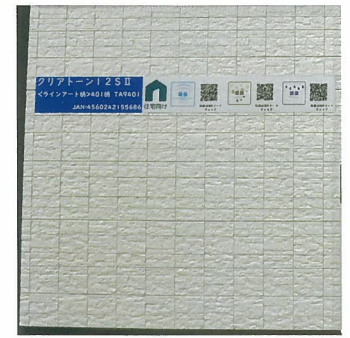
ホームセンター業界最大の総合展示会である「第60回 JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2024」(一社)日本DIY・ホームセンター協会主催)が、8月29日(木)〜31日(土)の会期を終

え閉幕した。折しも台風10号による交通分断が来場者の足に大きく響いたものの、会場の幕張メッセ4〜8ホールには3日間で6万2255名が参集。

同展は、新型コロナウイルス禍以前は2019年展8万6000名超の集客力を誇っており、昨年2023年展は5万6500名が来場。展示会規模も集客力も、

え閉幕した。折しも台風10号による交通分断が来場者の足に大きく響いたものの、会場の幕張メッセ4〜8ホールには3日間で6万2255名が参集。

同展は、新型コロナウイルス禍以前は2019年展8万6000名超の集客力を誇っており、昨年2023年展は5万6500名が来場。展示会規模も集客力も、



▲大建工業(株)：ロックウール素材で燃えにくく吸音効果もある天井材「クリアトーン12S II」は調湿機能もバツグン。洗濯物の部屋干し乾燥時間が早くなる利点を改めてPR



▲中国木材(株)：(株)長谷萬もくラボ事業部と共同出展。カフェ板やDLT、45mm角木材を専用クランプ(下)で簡単に仮設駆体を組み立てられる「つな木」をPR。DLTは石川県の仮設住宅で採用され、認知度が徐々に上がっている



▲ナイス(株)：ホームセンター向けの建材ラインナップだけでなく、Gywoodの端材を活用した万年筆、ボールペン等の文具を開発し初披露。贈答用にもピッタリな一品である



▲ホームセンター市場の様相が新型コロナウイルス禍以前へ徐々に戻りつつある様子が伺えた。木工機械や木質建材、関連する周辺メーカーからも常連出展者や久しぶりの出展者など各社が出展した。出展者の話によれば、従来のホームセンターは一般消費者からの需要がメインであったが、近年はプロユーザーがホームセンターを利用する割合が増えている。そのため、ホームセンター側が求める商材が、リーズナブルな一般消費者向けのものだけでなく、中高級な製品にまで広がっているという。新開発商品だけでなく、従来のラインナップの特徴を活かした別の用途での新提案など、各社が一般消費者ニーズを捉えた提案を行っていた。



▲株式会社クライベリットジャパンは初出展し、木工用PURボンド各種をPR。大手ホームセンターでの取り扱いが決まるなど、徐々にDIY分野での認知を広げている



▲株式会社ムラコシ：100V小型集塵設備は高度なDIYを行なうユーザーにはピッタリ



▲超振動式木彫機の実演で魅せる東京オートマック(株)



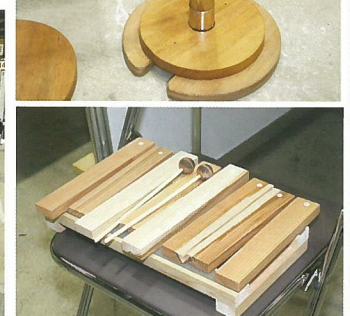
▲何と木のスイカ! 関西No.1の円柱材・丸棒加工専門店である(株)木原木材店が製作



▲アーティストリーは3D木工加工による優れたデザインで消費者を魅了する



▲98%国産スギ無垢材による木製窓は遮音・断熱性バツグン(株)日本の窓



▲山二建具：成田空港で導入開始したと言う木製ボール(上)。千葉産スギ製の木琴(下)は板の厚みと長さの違いで音階を生み出した逸品



▲岐阜県産材 松



▲木材製造の技術・ノウハウが詰まった各種ツールは内部が中空でデザイン性と使い勝手を両立(藤井ハウス産業(株))